



大切な目を守るために

～緑内障検診を受けましょう～

2000～2001年に多治見市で一般市民を対象に緑内障疫学調査が行われ、その結果、40歳以上の人口のうち緑内障患者さんは5.0%、20人に1人と予想以上に多いことがわかりました。また、緑内障患者さんの約9割が、自身では緑内障と気づいていない潜在患者であることもわかりました。



緑内障は、日本においては失明原因の第1位に位置します。悪化する前にできるだけ早期に発見し、治療を開始することが大切です。

自分自身で目を守るという自覚を持ち、発見の機会となる緑内障検診を積極的に利用しましょう。

緑内障とは

緑内障は、何らかの原因で視神経が障害され視野（見える範囲）が狭くなる病気です。

～緑内障の症状～

一般的に緑内障では、自覚症状はほとんどなく、知らないうちに病気が進行していることが多くあります。視神経の障害はゆっくりとおこり、視野（見える範囲）も少しずつ狭くなっていくため、目に異常を感じることはありません。

～早期発見・早期治療の重要性～

多くの場合、自覚症状がない緑内障に対して、最も重要なことは早期発見・早期治療です。一度障害された視神経をもとにもどす方法はなく、病気の進行をくい止めることが目標となります。したがって出来るだけ早期に緑内障を発見し、治療を開始することが大切です。



視野障害の進行

視野のイメージ像 ※右眼で表示しています

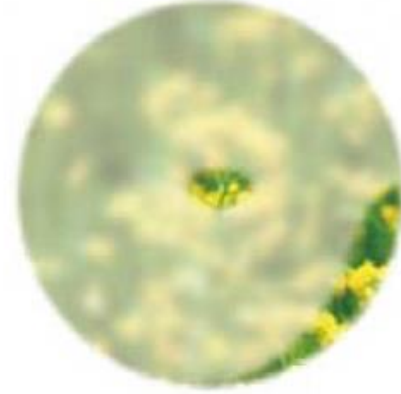
初期



中期



末期



実際には両目でカバーしたり、目を動かしたりするために気づかないことが多い。

目の中心をややはずれたところに暗点(見えない点)ができます。自分自身で異常に気づくことはありません。

暗点が拡大し、視野の欠損(見えない範囲)が広がり始めます。しかし、この段階でも片方の目によって補われるため、異常に気づかないことが多いようです。

視野(見える範囲)はさらに狭くなり視力も悪くなって、日常生活にも支障を来すようになります。さらに放置すると失明に至ります。